

手探りでのイチゴ狩り園経営 ～‘イチゴ狩り’という空間を提供～

半田市 澤田 好利さん（澤田農園）
施設野菜（イチゴ）

【平成 26 年 1 月 17 日掲載】

半田市でイチゴ狩り園（澤田農園）を経営する澤田好利さんを紹介します。澤田農園は、イチゴ狩り園の多い知多地域でも有数のほ場面積を誇っており、昨年度は約 3 万名のお客さんが訪れています。

友人からの誘いでイチゴを栽培

好利さんは、高校卒業後に水田受託による水稻作経営体を目指して、栃木県の農家で一年間の研修を受けます。ところが、帰郷した好利さんを待っていたのは厳しい現実でした。一年という短い期間に、地域では自作農の機械化が一気に進んでしまいました。そのため、土地の流動化が促進されず、当然、好利さんの元に水田が集まることはなく、自作地を耕すだけで就農 1 年目を終えることになります。

今後、どうするか悩んでいたときに声をかけてくれたのが、就農と同時に所属した知多 4 H クラブの友人でした。その友人は、多品目の野菜を栽培し、直売所で販売していました。その中でもイチゴが比較的高単価で販売されていたことから、「イチゴを一緒に栽培してみないか。」と誘ってくれたそうです。好利さんは早速、農業後継者育成資金を借りて 10 a のハウスを建設し、昭和 54 年にイチゴ経営を開始します。

イチゴ狩り園開始

しかし、イチゴ栽培については素人同然であったため、経営開始から 2～3 年は失敗続きで、ほとんど収穫物がありませんでした。特に、当時は土耕栽培だったため、苗の確保には苦労しましたが、中山間地域での育苗を行うことにより、イチゴ栽培が軌道に乗り始めます。その後は、上記の友人とともに「あそこ（地元青果市場）の出荷物を自分達のイチゴでいっぱいにして」と競い合うようにハウスを建設し、経営開始から 10 年で 50a を超える栽培面積となります。

平成 4 年、市場出荷を中心に続けていた澤田農園に転機が訪れます。イチゴ狩り園を経営する南知多町の観光農園から、「来場者が増えて、自園だけでは対応できないので、狩り園を開始してみないか」と声がかかります。当時は、栽培者の増加により地元青果市場へのイチゴ入荷量も増え、販売価格も横ばいとなっていたため、好利さんは狩り園の開始を決意します。



澤田さん夫妻
左：好利さん、右：貴美子さん



1 ha を超す澤田農園のイチゴハウス

手探りのイチゴ狩り園経営

取組当初のイチゴ狩り園は、市場出荷用ほ場の一部を開放し、来園者があれば出荷作業を中断して対応するといった効率の悪いものでした。また、知多地域におけるイチゴ狩り自体のイメージも今ほど定着しておらず、一日に数人の来園者しかないことも珍しくありませんでした。

「これではまずい」と感じた好利さんは、狩り園の運営と市場出荷ではまったく別のやり方で進めていく必要があると考えます。まず、初めに行ったのが狩り園専属の従業員を雇うことでした。この時に、雇用した従業員は、かつて金融機関に勤めており、「お客さんではなく、‘お客様’だよ」と接客業の基本を好利さんにも教えてくれたそうです。

次に取り組んだのが、ほ場の改良でした。当時、普及黎明期であったイチゴの高設栽培システムを地域でいち早く導入します。栽培自体には苦労したそうですが、立ったまま収穫できることから、来園者からの評判は非常に良いものでした。また、それ以外にも来園者の声に耳を傾け、園内道の整備など、ほ場の改良を重ねてきました。

これらの取組の結果、澤田農園の評判は口コミで広がり、知多地域でも有数の規模を誇るイチゴ狩り園へと成長しました。

‘イチゴ狩り’ という空間を提供

イチゴ狩り園経営の難しさを尋ねたところ、好利さんは「イチゴを提供するだけでなく、‘イチゴ狩り’ という空間を提供しているところ。」だと語ってくれました。

取組開始当初は、来園者の様々な要求に対して、農家の立場と商売人の立場で悩んだそうです。しかし、来園者が‘空間’を楽しむために訪れていると認識してからは、農家の立場では応えられないような要求にも応えることが重要だと考えるようになったそうです。「市場出荷に比べ、人を相手にする難しさはあるが、『美味しかった』『またくるね』と言った声を直接聞ける喜びは大きい。」とイチゴ狩り園経営の魅力を教えてくれました。



本年度も 12 月 14 日から
イチゴ狩りの営業を開始

また、最後に「自分も仲間に救われた。地域の人と相談しながら農業経営を行ってほしい」と若い農業者に対してエールを送ってくれました。ちなみに前述の友人は、今でも良き相談相手であり、切磋琢磨し合える仲だそうです。

澤田農園 → <http://www.sawadafarm.com/>

執筆：農業経営課
取材協力：知多農林水産事務所農業改良普及課

Copyright (C) 2013, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.



来園者の要望をとり入れたほ場整備

左：車椅子でも移動可能な様にほ場間には
コンクリートが敷かれている

右上：清潔なトイレ

右下：今年度から待合所に自動販売機を設置



ほ場でのマナーは、来園者の
良心に頼るところも多い